

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>御利用者様が“幸福”であると想いつづけられる空間づくり、自分自身を生かせる環境づくりを目指す。</p>	○	御家族様、近隣の馴染みのお友達との交流・親睦を深めるよう努力する事
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念を短縮文言に表し、毎日朝の申し送り時に宣言し、再認識しながら理念の実践に励んでいる。</p>	○	スタッフ間の意見交換を密にし、お互いに高め合う努力をする事
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>ご近所の方々との井戸端会議を大切に自然に溶け込めるよう計らっている。</p>	○	当方より地域に出向き積極的な交流をしていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>旭ふれあいまつり以来、近隣の方々との親交が広がってきた。地域の方々も気軽に出入り出来るサロンの役割をしている。</p>	○	既に、サロンの役割を果たしていると自負できるよう継続の努力をしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の催し等へは出来る限り御利用者様共々出向き参加協力するよう努めている。当方も“旭ふれあいまつり”等を催し、その際には地域の方々にも案内を差し上げるなど交流を促進している。</p>	○	“旭ふれあいまつり”を地域交流の場として発展させて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議等で得た情報をもとに話し合い時には、現場に出向いて相談を受けたりする。	○	空地を利用し、地域の高齢者方々の“いきいきサロン”を創りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を機会あるごとに説明し、評価の情報を共有し改善に取り組んでいる。	○	項目ごとにスタッフ会議にて検討し意見を交わし改善の糧としていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時までの報告と話し合いをし意見・提案等うかがう。	○	拝聴した意見や提案については、職員会議にて検討しサービス向上に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する行事はお手伝いする。キャラバンメイトの講師として協力する。当方の行事にも来てもらい、意見を頂いている。	○	現行の体制を継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一名該当者あり、機会を得た折、関係機関の方々に学び、又研修にも参加し学び活用している。	○	当方の体験を他施設の方々に情報として伝えていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し話し合いの場を持ち防止対策を講じている。	○	より多くのスタッフが研修会等へ参加し、情報を共有し実践していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解が得られるよう十分に時間をかけ納得いくまで説明している。	○	説明・話し合いの時間を惜しまない。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に傾聴の姿勢を重視し、反映させるよう心がけている。	○	気安く、何でも言える関係の保持を大切にする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々にあわせた報告をしている。(御家族の来訪が各人、頻繁なので、その都度を利用している。)	○	御家族様方々との話し合いを密にし、報告もわかり易くしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置に加えて、御家族を招待しての行事を家族会と兼ね御意見をうかがう機会としている。	○	全家族と交流出来るよう努力する。来訪しかねる人に対しては当方から訪問し話し合いを密にしてゆく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場、または要請があれば個人的に意見を聞き、反映している。	○	即答即対応出来るよう配慮していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	相当数のスタッフを確保している。必要十分な人数のスタッフを常時確保している。	○	スタッフ数を十分そろえておく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は安定している。十分な数の慣れ親しんだスタッフが常駐しているので、ダメージは最小限に抑えられている。	○	ゆとりを持って離職を宣言してもらい、仕事の継承をスムーズにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を啓発するため、研修費の負担と時間確保の援助をおしまない。</p>	<p>○</p> <p>常に向上心を持ち続けられる発表の場を設け刺戟しあえるよう計らっていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護サービス事業者協議会や研修会の場などを活かし、情報交換交流の努力を地道に行っている。</p>	<p>○</p> <p>行ってきた事の成果が出始めているので、継続して進めていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>家庭に負担をかけない勤務体制を考慮し休日は多くしてある。</p>	<p>○</p> <p>現状の体制を継続していく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>時間の確保と費用の支援はおしまない。</p>	<p>○</p> <p>費用と時間の問題は今後とも支援し続けるつもりである。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>生活歴を十分に把握し、とにかく話し合い、親しみあえるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>同じ目線で、傾聴出来、何でも話出来るよう努力している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>とにかく時間をかけて御家族様が納得行くまで話し合い改善を考えていく。</p>	<p>○</p> <p>信頼関係の保持への努力をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例として、ターミナル時の対応と緊急の対応支援は、すみやかに行える努力をしている。	○	対応のすみやかさはかなりのものであるつもり、今後も取り組みを続行するとともに、さらなる向上を図る。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	抵抗少なく受け入れるようスタッフが介入しながら調和を取っていく。	○	導入へ細かい心配りをする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	総じて協働を基調とする発想の原点は「共に生きる……」をテーマとしている。	○	共に過ごす事。一緒に何かを成し遂げていくうちに、同胞意識を深めていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	とにかく御家族が足繁く来訪しやすい状況とし、ともに話し合い、取り組む機会を増やす。	○	家族との情報交換は密にしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	双方の話をよく聞き、公平な立場で介入・相談支援する。	○	御利用者様本人と家族方との関係の改善を支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は気安く来訪してもらい、馴染みの場へは送迎する。	○	来訪し易い場の設定を支援し続ける。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	協調を重んじ、その場その場に応じて対応するも、心のかせをなくす計らいをする。	○	わけ隔てなく話し合える雰囲気づくりをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状、暑中御見舞、進物等への気配りをし、時には訪問し現況を語り合ってみる。	○	関わりのある総ての方々への支援をおしまない。機会ある毎に貢献していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話を心がけている。日常会話の中で把握している。	○	各個人の生活を見ながらご当人と話し合いを重ねていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は御家族や友人の方々より情報を得て把握している。	○	日頃の日常会話に細心の注意を払う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り時の情報をベースに現状を掴む。	○	申し送り情報と観察により現状を細かく掴む努力をおしまない。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各部門の方々との意見交換を十分にし、いい所を参考にしながら作成している。	○	各界の方々の意見を参考にしながら、本人に合わせた計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	臨機応変に介護計画を見直し、状態に適合作成している。	○	折りにふれ、スタッフ会議にて検討し、よりよき計画作成に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と備考欄の情報を重視するとともに、介護支援経過の流れ等より把握し反映する。	○	常に細かい情報の確保に努め、介護計画の見直しに反映する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	内部公開し手芸教室、料理教室等の開催に加えて、習字教室等を実施している。	○	地域の諸機関の介入を拒む事はしない。門戸を開き協調していく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署との協調により消防訓練や救急訓練を実施している。	○	毎年一回訓練の実施を続ける。諸機関との連携による研修開催を支援していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	連携病院のケアマネジャー、看護師等と話し合い、リハビリを導入した。	○	ボランティアによるセラピー目的の講習等を導入支援する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター自体が混沌としている。今後の課題は双方にあると思える。	○	その都度相互に努力、話し合いをしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院との連携により好転会している。	○	提携病院とのよりよい連携を保持していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	御利用者の主治医が提携病院の医師であり、密に連絡・相談しながら支援出来ている。	○	提携病院が認知症専門であるので、より良い指導を頂きながら支援を続けていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	受診も提携病院にて行われるので、看護師とは常に気軽に話し相談出来る状況にある。	○	現在の状況を維持しながら支援をしていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の場合には度々病院に赴き、現状を把握しながら早期退院出来るよう支援していく。	○	提携病院との質の高い連携の保持に努める。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に、家族・医師の方々と話し合い、方針は共有している。	○	三位一体体制のチームの強化を、日頃よりはげしておく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ている。現在まで、提携病院と連携、訪問看護等を導入し取り組んだ結果、良いチーム支援が出来た。	○	経験を活かし、さらにより良い支援を目指していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	一度経験あり。ケアハウスへの移転の支援は、家族と当人、移り先のスタッフ達と綿密に話し合いをしていたので、ダメージなく移住出来た。	○	その都度前もってよく話し合い、特に当人にはスムーズに移れるよう先方への情報提供は詳しく出来るだけ具体的にしている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ間で配慮しながら、プライバシーの確保に努めている。現在まで問題は生じていない。	○ スタッフ同士注意しあいながら、徹底し続けていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御利用者様本位への配慮は出来ていると、自負している。遠慮なくスタッフへ希望を述べられている。ご当人方々も満足されているようである。	○ 安心して生活出来る雰囲気づくりとともに、気軽にスタッフに要求できる体制の強化
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当スタッフは、御利用者と密に対話出来ているので希望にそえる情報をスタッフ間で共有出来るよう努めて支援の糧としている。	○ スタッフも経験深く、一人ひとりのペースを大切に支援出来ている。休みの日もあるのでスタッフ間の連携をさらに強化していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みのお店がある人は希望により送迎している。	○ 担当スタッフが当人・御家族様とよく話し合い、希望が満たせるようにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、メニューの報告をし、下準備等出来る事は協力して行う。	○ 日常の会話の中から御利用者様各人の好みなどが食事内容に活かせるように努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物等は冷蔵庫を提供し、自由に好みのものを飲めるよう管理支援している。	○ 嗜好の情報を把握し、生活を豊にする趣向をこらしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各室トイレありなので、排泄の失敗は少なくプライドを保っている。	○	現状の維持を支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴出来るよう計らい、バイタルと各自の希望やタイミングを見計らい、入浴を楽しんでいる。	○	温泉水を導入利用したいと考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分らしく生活出来る場として、各自お部屋づくりし、一人で休憩したり、リビングでおしゃべりしたりしている。	○	落ち着いた雰囲気づくり、安全で清潔な環境づくりを配慮し支援していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、ストレッチ、歌、ゲーム等、その希望に合わせて楽しめている。	○	各人の趣味趣向を把握し希望にそえるよう日頃より話し合っておく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	無理である。(紛失騒動ばかりである)。家族の方々からもお金の所持はさせないで頂きたいとの希望あり。(お金を持つ事の大切さを知り過ぎていることより生じる)。	○	立て替えて、その場限りのお買い物(ジュース、アイスクリーム程度)を楽しむ機会は作っているし、今後もこの程度は行なっていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当グループホーム周辺の散歩に加えて希望によりドライブしている。	○	ドライブにて四季を味わえる機会をなるべく多くつくりたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生花観賞、大衆演劇鑑賞、八朔人形見物等々、機会があれば出かけて行く支援をしている。	○	全員で出かけられる企画を実施してゆきたい(アンケートを取って選ぶ)。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に家族とお話ができるよう支援している。	○	希望があれば、当グループホームの電話機を提供する。手紙を出せるよう支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人達はいつでも気軽に来訪されている。当方への来訪者は多く、居心地よいようである。	○	馴染みのサロンのような役割を果たせるような雰囲気づくりをする。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃から、スタッフ間で話し合い、配慮している。	○	身体拘束委員会を定期的に開催し十分話し合っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない(フリーオープン)が、夜間のみ施錠を用心のためにする。	○	今後も自由に出入り出来るようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけと見守りにて昼間の安全を守り、巡廻にて夜間の見守りで安全確認している。	○	夜間巡廻時は特に注意を払う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	御当人の状態に応じその都度配慮している。	○	担当スタッフが責任を持って管理し把握していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急訓練、研修等への参加に加えて勉強会などにて日頃より取り組みしている。	○	種々の機会を利用し事故防止への認識を高めておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防に依頼し訓練している。マニュアルに沿って演習している。	○	訓練は日頃より機会をつくり熟練しておく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定して内部にて演習するとともに、スタッフ会議等にて常に話し合いながらマニュアル作りをしている。	○	専門業者による説明会の開催をする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクマネジメントの研修等への参加。知識と現実が整合できるよう御家族様方々とよく話し合い、対応策を講じる。	○	御家族様と話し合った事の記録を作っておく。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前と午後のバイタルチェックと観察にて現状態の把握、口頭又は申し送りノートによって、スタッフが情報を共有し御家族への連絡を取り対応する。	○	バイタルチェック時の観察は入念に配慮する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は個人に応じて支援している。症状により医師と相談しながら行っている。	○	身体状況の変化への気づきと即対応していく(医師との連携)。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べ物の工夫等にて便秘対策。芋など繊維質の食材を多めに摂取する。水分を十分に摂る。	○	運動と食事療法による対策。記録をとり目安とする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全介助、一部介助、見守りにて行っている。また、定期的に専門医師による管理、指導あり。	○	担当スタッフが責任を持って励行する。記録をつけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を取り摂取量を把握し対応支援する。	○	記録の確認をし現状を捉えた上で、分量確保の支援をする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り、常に話し合い対処している。研修等にて知識も十分に取得出来る努力をしている。	○	外来者の感染予防の注意を遠慮しないで協力依頼する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を得るため仕入れは毎日行う。	○	作り置きしない。安全を第一にマニュアルの徹底と実践。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺のスロープ、手すりの設置、目を和ませてくれる花々の設定。	○	良いアイデアがあれば即導入し工夫する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示、展示物あり。季節にふさわしい花々のあしらい。異臭のない空間づくり。	○	耳の遠い人はともすれば自室のテレビ音が大きく騒音となるので、お互い気をつけるよう配慮する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎコーナーの設置。ギャラリー風のアレンジをし、くつろげる場となっている。談笑も出来る場である。	○	ガーデンにもテーブルとチェアを置いてくつろげるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当スタッフと家族がよく話し合い、ご当人の満足のいく計らいをしている。日常会話の中に当人の希望を見つけていくようにしている。	○	当人と視線を合わせ、心情の汲み取りが出来るようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空間、空気の清浄さの保持にはことさら配慮をしている。こまめな清掃が一番である。	○	現状を維持していく。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築時の配慮の上に各人の身体能力に合わせ補助具を導入し、残在能力活用を重視している。	○	その都度の各人の身体能力を早めに見極め、安全への工夫をおしまない。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる能力を支援者が、まず熟知し、スタッフ間にて情報を共有し意見を出し合い工夫する。	○	わかりやすい目印をつけ、混乱や失敗を防止する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外窓の風景に四季の花を楽しめる工夫をしている。散歩等にも楽しめるようにしている。	○	近隣の人々にも楽しんで頂ける畑づくりを目指す。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

御利用者様のみならず地域の方々が気軽においでで行事、催しなどを共に取り組み、話し合いながら過ごせている。「ここへ来ると、帰りたくなくなっちゃう」というご意見もしきりである。